

崇徳興仁

中高
SOTOKU
同窓会だより

NO.
20

2008年(平成20年)11月14日 崇徳学園同窓会本部発行 崇徳学園同窓会ホームページ <http://www.soutoku-ob.net>
崇徳学園同窓会事務局 / 〒733-8511 広島市西区楠木町4丁目15番13号 TEL(082)237-9331 FAX(082)230-2897



▲崇徳高等学校中庭付近から眺める体育館・2・3号館を望む。(平成5年撮影「崇徳学園120年史」より)

同窓会での一年間は本当に早く時間が過ぎる気がします。最大の行事である十一月の同窓会総会、懇親会の準備はお世話をいただく当番幹事の委嘱からスタートになります。今年度も約半年前から当番幹事を中心とし、総会誌への協賛広告の依頼、チケット販売、会場での当日の進行確認など仕事の合間に東西走って頑張っていたいただきました。おそらく本日もぎりぎりまで懇親会場の座席のご案内など忙しく準備が続いたのではないかと思います。本当にお疲れさまでした。

また、平素同窓会の役員は学園の主たる学
校行事へ出席、全国大会へ出場するクラブの
応援、秋の学園祭の参加などを通して現役生
徒や教職員、PTAの皆さんとの交流を深め
る活動を行っています。また、役員会、幹事
会を開催し、今後の同窓会の方向性を議論し
ています。同窓会の活動は大変見えにくい
め、皆様にはお伝えにくい点がありました。今
後それらの活動を皆様にご紹介し、多くの
卒業生に関心を持ち活動に参加していただ
くため「同窓会ホームページ」をリニューアル
いたしました。可能な限り情報提供を心掛け
ていきたいと考えています。ホームページへ
は「崇徳学園同窓会」で検索をしていただけ
ればアクセスできますので活用いただければ
と思います。

CONTENTS

大本会長あいさつ	(P.2)
高橋理事長あいさつ	(P.2)
鳴川校長あいさつ	(P.3)
同窓会この一年	(P.3)
今年度の合格状況	(P.4)
全国大会出場のクラブ紹介	(P.5)
Pick Up同窓生	(P.6)
がんばれ！崇徳健児	(P.8)

崇徳学園同窓会ホームページがリニューアルいたしました。協賛バナー広告を募集いたしております。詳しくはホームページをご覧ください。

「さわやか」で充実した同窓会に

崇徳学園同窓会会長

大本 和 則氏 (昭和44年卒)



十月五日に大芝グラウンドで開催された崇徳中学校の運動会を見ました。競技種目は徒競走の他、騎馬戦等懐かしいものがあり、また伝統の「大相撲」「へびの皮むき」といった種目もあって大変楽しいものでした。

小雨から本降りとなる生憎の天気となったことから午後の種目は2種目しかできませんでしたが、一生懸命に競技を行っている生徒の皆さんの姿を見て感動しました。

規律の中においても自由な雰囲気があり、生徒の皆さんが伸び伸びとしている姿を見てさわやかな気持ちになりました。先生方のご努力もうかがえる気がしました。

また、高校におけるスポーツにおいてもボクシング部、柔道部、バレー部、弓道部、軟式野球部、そして自転車競技部等目覚ましい活躍をされ、同窓会としても大変嬉しく誇りに思っています。他のクラブも含め今後の活躍を期待するとともにこの良き崇徳の校風が今後とも続くことを願っています。

そして、同窓会も生徒の皆さんに負けず「さわやか」で中身のある充実した活動をしていきたいとの思いを強くしています。

これまでも、活力ある同窓会とすべく役員においていろいろと知恵を絞っています。なかなか思うようには行かないのが実情です。

同窓会の皆様におかれましては、どうか同窓会にも力を注いでいただき、母校及び生徒の皆さんへのご支援を是非ともよろしくお願いいたします。

厳しさが増す私学の経営環境

崇徳学園理事長

高橋 乗 宣氏 (昭和33年卒)



ゲリラ豪雨に悩まされた日々がまるで嘘だったかのように、澄みきった青空が天空いっぱい広がり、深まりゆく秋が実感される頃となりました。毎年この時期に、崇徳学園の同窓会が

開催され、懐かしい顔ぶれが相集まって、楽しいお話がはずみずみず。同窓会の皆様には、引き続きご壮健でご活躍のこととお慶び申し上げます。さて、理事会や評議会、さらには毎月の企画会議等を主宰するために母校を訪れますが、学園の雰囲気は引き続き活気に満ち、明るさが増しております。生徒たちが大きな声で挨拶を送ってくれ、こちらまで若返るような爽やかさを感じます。鳴川校長ほか、教職員の方々のたゆまぬご努力のおかげだと、こころより感謝しているしだいです。

文武ともに往年の力が蘇生してきていることは、なんととっても心強い感じがります。今年度の進学実績も、国公立大、有名私立大に大量の合格者を送っております。昨年に引き続きの実績もあり、安定的な実力になってきているものと喜んでおります。またスポーツでは、インターハイでも国体でも、後輩達が大きく活躍しています。今年も、ボクシングや柔道といった個人競技での活躍が際立ち、野球、バレーボールといったチーム競技がいまひとつ結果を出せていないのが気懸かりではありますが、選手達の力は傑出していきますので、来期には大いに期待できるものと考えているところです。

一方、少子化の影響は予想以上に厳しいものがあります。これに加えて公立高校の激しい巻き返しの影響もあり、入学者の確保が大変厳しくなっております。「質」を維持しつつ同時に「量」を確保するというのは容易なことではありませんが、先生方に「量」の工夫と努力をお願いしているところです。生徒数の定員割れは、即、財務の不調につながります。定年で退職される教職員の補充も極力抑制するように努めておりますが、教育に支障を来すわけにはゆきませんので、こうした努力にもおのずから限界があります。速からず、保護者へご負担の増加をお願いせざるを得ないかとも思いますが、世界的な経済の混迷が始まっている中で、これも最小限度に止めなければなりません。

こうした厳しい環境の中で学園が生き残っていくための方途をなんとか探り出し、果敢に実行していかなければなりません。

同窓会の皆様には、今後とも引き続き熱いご支援をお願いいたしますとともに、機会があれば是非とも母校を訪れ、後輩たちを大いに激励していただきたいものと念じております。

崇徳学園同窓会役員名簿

会長	大 本 和 則 (S44年卒)	副会長	大 本 和 則 (S44年卒)
副会長	森 正 和 (S31年卒)	副会長	藤 井 健 二 (S42年卒)
副会長	原 藤 康 博 (S44年卒)	副会長	小 早 川 裕 範 (S44年卒)
副会長	河 野 秀 敏 (S48年卒)	副会長	小 早 川 裕 範 (S48年卒)
副会長	松 岡 生 朗 (H1年卒)	副会長	小 早 川 裕 範 (S55年卒)
事務局長	樽 田 中 本 (S55年卒)	監査	中 西 清 西 (S44年卒)
		監査	川 村 永 誠 (H6年卒)
		監査	水 村 永 誠 (H6年卒)
		監査	紀 直 成 晃 (S46年卒)
		監査	彦 哉 (S49年卒)
		監査	幸 夫 (S54年卒)
		監査	幸 夫 (H2年卒)

学園の取り組みについて



崇徳中・高等学校長

鳴川 則弘氏

立冬が過ぎ、今年も一ヶ月半を残すところとなりました。同窓生のみならず、今年も恒例の同窓会総会が盛大に催されますこと、心よりお祝い申し上げます。この一年を顧みますと、世界的な激しく大きい波が、私たちの暮らしにまで直接的な痛手をもたらすことが度々でした。アメリカのサブプライムローン・金融危機に始まり、あおりを受けた株価の暴落・乱高下、これらは欧州・アジアにまで波及し、日本でも円高など経済の停滞・不況を招きました。広島の景気も張りを失ったように感じられ、取りわけ後半期の落ち込みはマスコミで伝えられる以上に厳しいようです。聞くところ、地域の活力は細って鈍くなり、暮らしに直接的な陰が及んでいるとのことです。公立との間に授業料格差のある私学にとりましてはいつそう厳しい時代を迎えたようです。

その広島にあっても、みなさまの母校崇徳は健在です。今春の入学者は、中学校で七十九名とすこし少なかつたものの、高校は四百名を超えて十二クラスを取り戻し、中高合わせて一四〇〇名の生徒たちが元気に学んでいます。進学は国公立六十五名、早稲田をはじめ明治・中央など首都圏の難関大学へ三十余名、近畿圏の関関同立へは七十名の合格者を出しました。数多くの卒業生が所期の目的を遂げて、今ではみなさまの後輩として同窓会新入会員となつています。また、クラブも例年通りの頑張りをを見せて、今年もインターハイへは六クラブ、国体へも六クラブが出場しました。ボクシングでは昨年のインターハイから連続しての三冠を達成しました。今年もわが「崇徳」には全国チャンピオンがおります。全国大会に出場したクラブの全員が、崇徳の名を高め、母校の栄誉と伝統に1年分の厚みを加えてくれました。全国大会には至りませんが、他にもたくさんの方々の活躍を積み上げています。暑さを感じず寒さにも耐えて、豊かな活動実績を積み上げています。そして寒さに感じる季節にも耐えて、校内を見ます。中・高とも一歩一歩と自分たちの資質を磨き続けています。すばらしい生徒たちです。

同窓生諸兄に続くことのできる有為の人材を育成すべく、広島の少し先の時代を見越して、今年も校内に「未来そうぞう委員会」を立ち上げました。児童・生徒の数が少なくなつた厳しい時代に、わが崇徳学園が生き抜くための方向を探り、新しい時代へのいつそうの発展の道を探ります。地域の方々に高い評価をいただき、引き続きこの「三篠の地」で人創りを進めるこ

とができるよう、未来を創造します。1年間での立案・具体案作成は時間的に難しいところですが、能う限り速やかに、崇徳に関わるすべての人々がヴィヴィッドな崇徳の新しい姿をイメージできるような、具体的な近未来の姿が実感できるような、精一杯の奮闘を続けていきます。

同窓生諸兄におかれましては、今後とも母校への変わらぬご支援を賜りまして、ご指導ご鞭撻をいただきますようお願い申し上げます。

同窓会この一年



- | | | | | | |
|---------|---------|---|-------------------------|--|--------------------------------|
| 〔平成19年〕 | 11月9日 | 平成十九年度同窓会総会及び懇親会
(於・ホテルグランヴィア広島) | 5月28日 | 幹事会
(於・広島国際ホテル) | |
| | 11月28日 | 平成十八年度活動報告
平成十九年度収支決算(案)の承認
報恩講・学園関係物故者追悼法要
(出席/森正・鶴岡・龍水副会長) | 6月21日 | 崇徳学園PTA・同窓会懇談会
(於・広島国際ホテル) | |
| | 11月28日 | 正副会長会議
(於・ホテルグランヴィア広島) | 6月26日 | 正副会長会議
(於・崇徳学園本館応接室) | |
| | 〔平成20年〕 | 2月14日 | 正副会長会議
(於・崇徳学園本館応接室) | 7月4日 | 崇徳学園同窓会関東支部総会
(於・東京・ホテル横山館) |
| | 2月28日 | 高等学校卒業生表彰式・優秀クラブ
及び個人に記念品贈呈
(於・崇徳学園体育館)(出席/大本会長) | 7月22日 | 正副会長会議(於・崇徳学園本館応接室)
幹事会(於・崇徳学園本館会議室)
原爆忌(出席/大本会長・森正副会長)
全国高校総体ボクシング・柔道競技応援(埼玉県)(中川監査) | |
| | 3月1日 | 崇徳高等学校卒業式
(於・崇徳学園体育館) | 8月6日 | 全国高校総体ボクシング・柔道競技応援(埼玉県)(中川監査) | |
| | 3月14日 | 正副会長会議
(於・崇徳学園本館応接室) | 8月12日 | 全国高校総体ボクシング優勝報告会
(於・広島ガーデンパレス) | |
| | 4月7日 | 崇徳中学校・高等学校入学式
(於・崇徳学園体育館・講堂) | 9月18日 | 正副会長会議・幹事会
(於・RCC文化センター) | |
| | 4月17日 | 崇徳学園歓迎会
(於・広島ガーデンパレス) | 10月2日 | 正副会長会議(於・崇徳学園本館応接室)
(於・崇徳学園本館応接室) | |
| | 4月24日 | 平成十八年度同窓会懇親会
(於・松岡・龍水副会長・清水・中川監査) | 10月8日 | 同窓会奨学生採用伝達式
(於・崇徳学園本館理事室) | |
| | 4月24日 | 正副会長会議・当番幹事慰労会
・新旧幹事引き継ぎ会(於・和さび) | 10月9日 | 幹事会(於・崇徳学園本館会議室)
正副会長会議(於・崇徳学園本館応接室) | |
| | 5月21日 | 宗祖降誕会・開校記念日
(出席/森正・齋藤・河野・鶴岡・龍水副会長・清水監査) | 10月20日 | 正副会長会議(於・崇徳学園本館応接室)
(於・崇徳学園本館応接室) | |
| | | | 11月2日 | 崇徳祭出席参加
(出席/大本会長・齋藤・河野・松岡副会長・山田幹事) | |
| | | | 11月2日 | 平成十八年度同窓会会計監査
(出席/清水・中川監査) | |
| | | | 11月6日 | 正副会長会議(於・崇徳学園本館応接室)
幹事会(於・崇徳学園本館会議室) | |



崇徳学園同窓生の皆さんがさまざまな業界や地域で活躍されています。今回も一部をご紹介します。いただきます。

新鮮な「フルーツとのふれあい」をお届けしています。地元根づいて50年、「ニシダフルーツ」。

先代が広島で西田果実店としてスタートし約半世紀。五年前に先代社長が退職されその後を子息である西田龍太郎さん(平成二年卒)が引き継いだ。毎朝、六時から始まる商工センターで市場のセリに立会うのが日課。その日に入荷した新鮮なフルーツを仕入れて店頭へ。主な業務内容は果実販売で店舗での小売販売、市内の洋菓子店やカフェバーなどへの納入。店舗では店頭立ちお客様との出会いを大切に接客には「その日の果物を通して小さな感動や喜び、心のふれあいで少しでも元気を感じていただければ」との思いをモットーに「これからは秋から冬にかけてみかんの美味しい季節を迎える。広島は瀬戸内の温暖な気候に恵まれたみかんの特産地。今年のみかんは過去十年間で最高の仕上がりだと自ら宣伝し期待する。中でも「蒲刈の輝」というブランドは人気が高く売れ行きも良い」と地元果物への思い入れも忘れない。

崇徳での学生時代はクラブに所属はしていなかったが、卒業後、野球好き同士が集まった草野球チームを作り休日などに練習や試合をしたことが良い思い出であり、同級生である数学科の樽本秀幸教諭(同窓会事務局)が軟式野球部の監督として広島県で強豪校の一角として生徒を指導していることにもご縁を感じている。「その当時からすでに、樽本君は本物の先生のように丁寧に数学を教えてくださいました」と当時を思い出す。



●ニシダフルーツ 中区東白島町15-1
西田龍太郎さん(平成2年卒)

今後は店舗を改装し、ジュース・スタンドやカットフルーツコーナーを新設し、店内でフルーツを味わえるスペース作りを計画。果物を通して新しいコンセプトでお客様との接点作りを考え、より一層身近に「果物」をイメージさせる店舗経営が出来ればと構想に夢を描く。新しい感覚でフルーツショップにチャレンジする熱意と意気込を感じた。

海苔をお届けして80年。「山城屋」。伝統製法の「味付のり」!炭火焼き製法で焼き上げた焼海苔が自慢。

海苔の山城屋は昭和三年創業「本当に良いものを作りなさい」。この創業者の精神で海苔づくり一筋八十年。「誠のある製品作り」をモットーに「お客様の信用が第一」を企業理念に社員一同伝統を守り続けている。

創業時より伝わる製法はこだわりの天然素材からとった「だし」で炊き上げる全国的にもめずらしい炭火焼き製法。中でも自慢の一品は、その夕日で焼き上げた「味付のり」で全国各地に出荷している。さらに伝統の味を活かした「牡蠣だし醤油味付のり」「しじみ醤油味付のり」など、地元広島瀬戸内海の産物を取り入れて商品化。こちらも好評を得ている。このような炭火焼き製法で焼き上げる焼海苔ラインは全国的にも希少な設備で注目をされており、自慢の財産となっている。

取締役の松岡生朗さん(平成元年卒)は、崇徳の中・高校の卒業生。中学当時、現在の大芝グラウンドにあった興仁寮での経験が今の自分を支えていると当時をなつかしく振り返る。



●株式会社 山城屋 松岡 生朗さん(平成元年卒)

趣味は、「ピリヤード」。学生時代に観た「ハスラー2」に影響を受け夢中になった。ピリヤードは集中力や先読みする技術が必要で、「仕事や日常の中で同じ仕事を継続することの大切さ、様々な決断を要する時にピリヤードで学んだことが役立つような気がする」と感じて仕事の合間に楽しんでいるようだ。

今後は「どこにもある商品」よりも「ここしかない商品づくり」をめざし、お客様から常に必要としていただき、喜んでいただける。そんな商品づくりを続けていきますと、新しい時代の挑戦への意気込みを持ち続けている。



広島名産、広島菜漬「安藝菜」を お届けして半世紀… 「安心・安全」な製品作りを目指します。



地元広島に伝統と新しい食文化の創造に励み広島菜の調味漬として、「ザ・広島ブランド」に認証され注目されている。

日本の三大菜漬の一つである広島菜漬の「安藝菜」、「安藝紫」や「倭」「福菜」など漬物が主力商品。広島菜の風味を活かし練り込んだ麺「安藝蕨」や、広島の特産品を使った「カキムチ」など新しい商品を開発生産しているのが株式会社山豊。創業は昭和37年。以来、半世紀にわたり、当時はまだ全国的に知名度が高いとは言えなかった広島の特産品である「広島菜漬」のブランドを全国各地に広めていく活動を続けている。今では内閣総理大臣賞、農林水産大臣賞など数多くの受賞をされるほど国内でもその品質など高い評価を受けている。

今後も全国的な知名度を上げるための取組みとして、ここ数年食品業界で発生した偽装問題や生産に於ける残留農薬混入などを考慮し、環境・ISO取得にも意欲を見せ「安心・安全」な製品の提供に注視し食育推進活動などを通じて品質向上や新たな製品開発を行なうなど食文化こだわりもある。

代表取締役の山本ちくまさん(昭和51年卒)は高校時代は応援部に所属。当時は各クラブが強豪校として活躍した時代。野球部の応援などに青春を共にし、思い出深いのが昭和51年春、卒業後間もなくの選抜大会で野球部が全国制覇した時「応援団員として甲子園のアルプススタンドで応援できたことが一生の思い出」と熱血あふれる崇徳健児である。

●株式会社 山豊

代表取締役 山本 ちくまさん
(昭和51年卒)

サッカー32年ぶり再戦

崇徳・松本県ケ丘高(長野)のOB



随所に当時のプレーの面影

再戦の思い出をもう一度
一九七六年の全国高校サッカー選手権大会で対戦した松本県ケ丘高(長野)の当時のメンバーが、十一月一日、松本市の松本平広域公園多目的広場で三十二年ぶりに再戦した。両チームのメンバーは懐かしさをかきめてながら、ボールを追い回していた。崇徳十四人、県ケ丘二十一人のOBが参加。この日のために新しいユニフォームを着て臨んだ。二十五分ハーフで、往年のプレーが復讐、思切れつつも華麗な足技やボールタッチの妙は、随分前には健在だった。

試合は三十一分、県ケ丘の勝利。崇徳は十六分残り、今月下旬から次リーグを戦う。当時の監督で現在は部長を務める松本市中区の福島良一さん(60)は「これがひとつの契みになって、後輩たちの全国へ力になれば」と、目を細めていた。

(菊本志)

学園祭に参加!

十一月二日(日) 於 崇徳学園



昨年に引き続き、本年も学園祭に大会会長はじめ5名が参加。昨年はスパイシーチキン串。今年はアメリカンドッグで出店。学園祭でマジックショーを披露した平成二年卒のマジシャン、RYOさんがブラス横でマジックやペンシルパルーンで盛り上げて下さったのですが、残念ながら販売は用意した400本の約半分のみ売りに止まった。ただ、多くの現役の生徒さんたちと触れ合えて同窓会の存在をイメージしてもらえたことが最大の収穫であったように感じました。来年もリベンジを期して参加します。

なつかしの一枚…。写真で見る崇徳生時代。

「法 ほうのわ 輪」

崇徳中学校の卒業生の皆さんは、この写真を見るとこれが「どこにあったか」とか、「何の目的に…」すぐにお解りいただけると思います。崇徳中学校の大芝校舎があった時代に講堂に設置された「仏参や学校行事」の際に何度も目にした法輪です。今は校舎が取り壊されているため、その場では見る事ができませんが、現在でも大切に新館校舎二階の応接室に保管されています。

あらためて、この法輪を見てみると、次のような解説がありました。「法輪」(ほうのわ)輪は古代インドの武器。仏陀釈尊の教えが人間の悪をくだき、展開して他人に伝わるのだとたとえた話で、釈尊が法話の象徴として礼拝の対象としました。と書き記されています。

この写真を見て大芝の興仁寮を思い出される卒業生もおられることでしょう。機会があれば法輪に会いに崇徳学園に足を運んで下さい。

●ボクシング競技優勝報告会●

また、十月の国民体育大会に於いて、少年の部フライ級で青木貞頼君が優勝。ライトウエルター級の小船修平君が三位。ライトフライ級の中山和紀君が五位。と各選手が実力を発揮し好成績をおさめた。

また成年の部では昨年度卒業の丸亀光君がバンタム級で優勝。一昨年度卒業の福原徳光君がライトウエルター級で二位となり、この結果広島県がボクシング競技で初めての総合優勝の原動力となった。

二階級制覇の偉業達成をした。青木君は日頃より目標を高く見据え、その練習の成果が今回大会で存分に発揮された見事は試合内容であった。試合運びも冷静で落ち着きあるもので高校生でありながら貫禄すら感じさせてくれ全国的に高い評価を受けている。四年後の五輪ロンドン大会への出場も期待をされる選手の一人に頭角を表しはじめています。さらなる飛躍に期待したい。

尚、この大会の学校対抗で崇徳高校は全国総合四位の好成績をおさめた。

2008(平成20)年度全ボクシング競技



輝く二階級制覇・二年連続全国優勝!

★中ガンバレ! 崇徳健児!

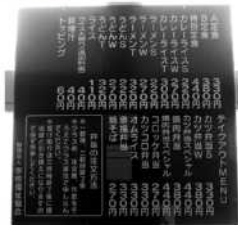


平成二十年九月十二日、広島カールデンパレスにて全国高等学校総合体育大会「ボクシング競技優勝報告会」が来賓、広島県ボクシング連盟、崇徳高校ボクシング部OBおよび学園関係者ら多数出席のもと盛大に行われた。

全国大会フライ級で全国優勝した青木貞頼君は、昨年のインターハイではライトフライ級で優勝しており

Back to the 崇徳学園

なつかしの学生食堂・今昔物語!



私の学生時代を思い返すと、実はあまり学食を利用した思い出がありません。というのは当時は、かなり運動部の先輩方がはばを効かせていて、なかなか食堂で食べられなかったような？思い出がありません。昼休み後半、先輩が食事を終わらせた頃、午後の授業までの時間に必死で食べていたような記憶があります。現在のメニュー一番人気は、「チキンカツ定食」だそうです。続いてカレー、ラーメンと定番のメニューが並びます。また、カレー、ラーメン、うどんにはS、W、Tと3種類のサイズが選べるそうです。Tとはもちろんトリプルです！やはり成長期で食欲旺盛。みんなよく食べるんだろっな!

その他、食堂内にはパン屋さん(ドーナツ)と売店があります。パンの一番人気は「とろふ」だそうです。人気商品でゲットすることがむずかしいようです。

食堂は12時40分~13時15分まで。売店とパン屋さんは11時40分~13時15分までが利用時間だそうです。ちなみに卒業生でも食堂の利用はOKだそうです。受付で来校者証を発行してもらい食堂をご利用下さい。特にテイクアウトはお勧めです。一番の人気はご存知「カツ弁当」。このほか、焼肉弁当、コロッケ弁当、カツココロ弁当、から揚げ弁当などメニューは豊富です。

お昼時に母校のお近くをお通りでしたら是非、立ち寄って崇徳時代の懐かしい味に再会してみたいかがでしょう。



小早川 秀雄(548年卒)

編集後記

「同窓会だより」は、同窓生の近況や話題を掲載したり、現役生徒さんの活躍や母校の様子をお伝えできる唯一の機関紙です。毎回、母校や同窓生の職場をたずねて取材をします。その際いつも遠く過ぎ去った「崇徳時代」の話に時間を忘れてしまいます。幾つになっても心の中に「血気盛んな若い崇徳生」の自分がいるようです。卒業後も続いて母校にご縁をいただける喜びは年々強くなり、崇徳の活躍が我がごとのように思え、校訓四綱領である「健康・誠実・精進・感謝」の言葉が身にしみて分るようになった今日この頃です。これからも文武両道、崇徳の新しい歴史と伝統を楽しみ見守っていきたいと思います。

同窓会監査 中川 隆(S54年卒)